



幸樹

こう じゅ

第 57 号

2019 年 12 月 1 日



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵・井上 忠司

愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングの魅力に夢中になり、10年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

第 24 回地域交流カフェ クリスマス会

日時: 12 月 17 日(火) 12:00~、場所: さんしょうリビング

●食事会 12:00~

●岡野牧師のお話、グレースホーム聖歌隊

●職員マジックショー、ハンドベル部演奏

《どなたでも参加自由、ぜひごお出てください》



大変なことも
ありますが、
楽しく暮ら
しています

たけもとひさこ
武本壽子さんにインタビュー

私たちが訪問看護でお伺いしている
惇志くん（あつくん）のお母さんが武本
壽子さんです。とてもパワフルな方です。
先日の、芋ほりには、お父さんの
大志さん、弟の昌大くんと4人家族全
員で参加してくれました。壽子さんにお聞
きました。（聞き手・村里恵）

毎日、授業参観のよう

私は、短大卒業後、保育園で保育士として13年勤務してきました。

長男惇志は、妊娠中に水頭症を指摘され、2010年に大学病院で出産しました。他にも先天性の脳の形成障害があり、NICU（新生児集中治療室）で治療しました。

月齢3カ月の時に、髄膜炎から脳室炎になりました。回復が難しく、「もう長くないだろうから、せめて抱っこはさせてあげたい」と主治医が考え、私も毎日面会して惇志を抱っこしていたところ、病状が落ち着いてきました。落ち着いているうちに、少しでも家に帰ろうと、8カ月の時に退院しました。

私は、職場復帰を考えましたが、惇志の預け先がなく、退職することになりました。

惇志はその後、水頭症の悪化など紆余曲折ありましたが、それも次第に落ち着きました。人工呼吸器や医療的ケアの必要な惇志との暮らしの中で、大変なこともたくさんありますが、助けてもらいながら、楽しく暮らしています。惇志3歳の時に、介護について学ぶ必要性を感じ、夫の休みの日を利用して、介護職員初任者研修の資格を取得しました。

今、惇志は9歳になり、松戸特別支援学校小学部3年生です。惇志の学校付き添いがあるので、毎日授業参観のようです。息子の長期休暇の時のみ、放課後デイで短時間働かせてもらっています。

自分らしく生きる力のある子

惇志は、脳中枢性の無呼吸があり、眠ると血液中の酸素濃度が下がるので、気管切開をして人工呼吸器とともに暮らしています。知的・身体的に重度の障害が



左から、芋ほりを楽しむ昌大君、惇志君、壽子さん

あります。

惇志は、血液中の酸素濃度の目安である経皮的動脈酸素飽和度（SPO₂）を測るサチュレーションモニターをいつもつけています。息を止めたり力を入れたりしてサチュレーション（酸素飽和度）が下がるとモニターが鳴るので、それで人を呼んだり、なかなかのツワモノです。自分なりの方法でコミュニケーションを取ることが上達してきて、頼もしく感じています。命がけで自己表現する、自分らしく生きる力のある子だと感じています。

学校や放課後デイが大好きで、母から少しは解放されたいと思う年齢相応の気持ちも育ってきている小3の男の子です。この夏は、海に行って真っ黒になって帰ってきました。

がんばりすぎない

私自身は、長男惇志が退院してから体調を崩して寝込むことも多かったので、最近では体調を整えるため体を休めるのも母の仕事と考え、休む時は休む！がんばりすぎない！と強い意思を持って体を休ませています。お母さんが笑えないくらい疲れていたら子どもは幸せではないと思うので、手抜きをしてもみんなが笑顔だったらいいかなと。

息子たちが無事に生まれ、息子たちの成長を目の当たりにし、あるいは自分以外の人で成長を感じてそれを教えてもらった時、二人それぞれに個性豊かに成長していることが感じられて嬉しいです。

長男が気持ちよさそうに寝ている時、次男と手を繋いで保育所から帰る時など、毎日が穏やかに過ぎていると実感できる時、幸せを感じています。

多くのサポートに恩返しを

息子たちを育てるにあたって、私たち家族は多くの方々に助けられています。息子たちのことで、サポートしてくださる方が増えてきて、本当に幸せだと思っ

ています。頼れる人には頼る、お任せできることはお任せすることができるようになってきました。

その方々に、直接恩返しはできないかもしれないけれど、いつか、恩送りのような形で世の中に少しでも返していきたいと思っています。

長男の成長の中で、困ったことがたくさんありました。どんなに重度の障害があっても、高度な医療が必要でも、その人らしく生きていくことを尊重してもらえる世の中であって欲しいと、強く願うようになっていきます。そして、年相応に自立することの大切さも感じていて、将来、息子が学校を卒業して社会に出る年齢になった時、「人生を謳歌しているね！」と言ってもらえるような居場所が欲しいと考えています。さんしょうのリビングみたいな感じ、素敵ですね。

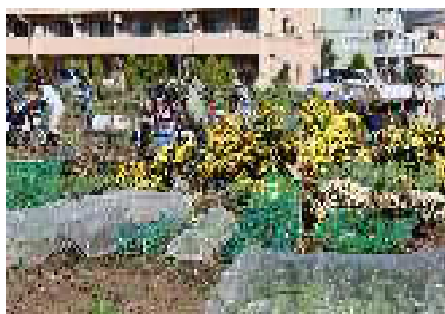
今ある困難は、良い未来につながっていると感じるので、これからも様々な出来事に丁寧に向き合っていきたいと思います。

芋ほい 落花生ほい

あんず畑は豊作

11月16日、「芋ほり・落花生ほり大会」をあんず畑で行いました。近隣の子供達、さんしょうの利用者などで、あんず畑の収穫を楽しみました。

NICU（新生児集中治療室）で、4年間治療していた佐藤春陽君は、お母さんと一緒に参加、初めての芋ほり体験です。モンシロチョウを見つけて、ひらひらと手を動かして「ちょうちょがいるよ」と教えてくれたり、ほりあげたお芋に手をたたいて喜んだりしていました。



菊の花もきれいな畑で



はる君(中)お母さん(右)と芋ほり

デンマーク訪問記Ⅱを発行

子育て・教育現場をみる

昨年、デンマークの在宅ケアの現場を見学して『デンマーク訪問記』を記した中野三代子代表理事が、こ

の9月に再びデンマークを訪れ、子育て・教育の現場の見学したことを訪問記にまとめました。

社会保障・公的介護が充実し、困難や障害がある人々が尊厳ある生活を送ることができる社会と、その社会をつくっている人々を育てた子育て・教育の現場を見てみたいと訪問した記録です。

いじめ・不登校・学校格差・大学入試共通テストの民間業者丸投げ、教師の長時間労働等、日本の教育問題が深刻度を増していますが、日本とは違う教育制度、多くの日本人とは違う人々の教育についての考え方・生き方が見えてきます。ご一読ください。



福祉用具相談員

の

こころ

福祉用具相談員 武井 友恵

介護ショップからたちは、からたち薬局の一隅の小さなショップです。納品その他で(株)福祉協同サービスにご協力いただいています。足立区北千住・柳原地域で、日本でも先駆的に補助器具・福祉用具を地域ケアの中で活用してきた実践をもとに共同事業として設立運営されているのが(株)福祉協同サービスです。たいへん頼りになるパートナーです。私は経験も浅く、自信がない時は、福祉協同サービスさんに確認して、いつも多くのことを教えていただいています。

福祉用具活用し生活改善を

福祉用具レンタルは、介護度認定されている方で、ケアマネジャーに相談が必要ですが、介護用ベッド・車いすなど高価なものが介護保険を使って1〜2割負担で安くレンタルすることができます。

上手に活用すると、生活動作、自立度が随分改善します。自分の体に合うものをお試しいただけるのも良い点です。車いすでも、一人ひとり機能だけでなく座り心地など身体に合うものが違うので、お試しは是非していただけたらと思います。

介護ショップからたちでは、介護保険対象にはならない防水シートやすべり止めマットなども多くはありませんが、置いてあります。お時間をいただければカタログからの取り寄せもできますので、お立ち寄りの際はお気軽にお声かけください。



デンマーク便り...⑬

ラスムッセン 京子

写真は、国立病院小児科の医師（女性）と医局長が、彼女の患者に新薬を使用すべきか意見が食い違い、意見を交わしているところとして紹介されたものです。普通デンマークでは、相手をこんなに近くで指さすことはしません。しかも、時間が急がれているのか、事務室でなく調合台の前で行われています。かなり厳しいやりとりの場面です。



高額薬剤費に苦慮

デンマークでは、医療費が無料なので、厚生省が標準治療として使用できると認可された医薬品が処方されます。数多くの高価な新薬はその標準治療として許可されていません。

デンマーク国会は、2017年の1月1日から、医療予算は国民全体の医療状況に即したものであるべきで、医療予算を圧迫する高価な新薬を医師が処方するに当たっては、医薬品協議会の許可がおりるとし、7つの原則を提示しました。その7番目の原則では、患者は医師団が最善と考える治療を受けるべきであると言っているのですが、実際には新薬の使用許可を受けるのが難しくなる可能性が出ています。

写真の国立病院の白血病などを治療している血液医療科は、新薬を若年者・小児の患者に処方するための医薬品協議会の許可が下りた例を一番多く抱えているところです。同時に、少なくとも500万クローネ（約8400万円）の科としての経費節約を要求され、苦労しています。

一方で、非常に高価な薬を使用することを医薬品協議会が許可しなかった後、不幸な帰結をたどった患者の例をメディアが取り上げたりします。

医薬品協議会に柔軟な判断を求める声や、地方自治体では、医薬品協議会の決定から逸れることを希望する場合のガイドラインを策定するところもできました。

八柱学習会

●前回報告 11月15日（金） 助言者 武井幸穂氏
「認知症ケア実践者研修」報告

ケアステーションゆず・小早川貴美

自信をもって地域で暮らせるよう

「自信を持って地域で暮らすー“ゴミを出す”それが案外難しい」という題で報告がされた。

Aさんは、要介護2で認知症があるが、食事は簡単なもの

のは自炊、週1度囲碁クラブで囲碁を指し、その後仲間とお酒を楽しむという生活の自立度が比較的高い方である。ただし、ゴミ出しが上手くできなくて、間違いゴミと張り出されたり、近所のひそひそ話になったりしていた。本人もゴミの話になると、表情が一変し気まずそうになる。ゴミ出し日がわからなくて室外機の裏にゴミを積んでしまうということもあった。

「ゴミ出しが自分でできる」ことを目標に、週1回の訪問時にどこでつまづいているか確かめながら支援をした。1週目に、分別ごとのゴミ箱に写真をはりゴミ捨て曜日を記入、カレンダーに曜日ごとまとめてゴミの日を記入。本人は「分かりやすい」と笑顔だった。しかし、2、3週目ともゴミの分別はできていたが、ゴミ出しが出来ていなかったの、より大きく見やすいカレンダーに交換し、日毎に種類別ゴミ出しを記入、収集時間を記入して見やすい壁にかけた。4週目には、燃えるゴミ、燃えないゴミも無くなっていた。ご本人は、「こんなに分かりやすく書いてくれたので、わかるよ！」と明るい表情で胸をはった。その後も、「年寄りだけど、年寄りくさくならないよう生活していきたい」と、ゴミカレンダーに自分で記入して、おおよそゴミ出しはできている。（参加者16人でした）

▼次回学習会予定（「定例日：毎月第3金曜日」）

●12月20日（金）、18：30～

「認知症ケア実践者研修」報告

看多機さんしょうケアマネジャー・石原育子

場所：幸樹会館2階会議室《参加自由》

職員募集！非営利・働きがいある職場

看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550

今月の屋上太陽光発電量は、

880KWh

幸樹会館電力使用量 4018KWh 自給率 21.90

